

## E-20 生活研究における「労働力」概念の検討(その2)

都立立川短大 の伊藤 セツ 法政大大学院 森 ます美

目的 「労働」・「労働力」ならびに「労働力再生産」という概念は、経済学における最も基本的概念として位置づけられてきた。同時に、これらは、家族・家事労働・家計等を対象する家庭経営学領域にとどまらず不可欠の概念であり、これらにかかわる経済学理論の展開と蓄積が、家庭経営学領域の科学的発展に寄与するところも大きい。われわれは、家庭経営学部会関東地区標準生活費研究会で標準生活費算定上とりこんでましたが、この分野でも「労働力」、「労働力再生産費」、「労働力の価値」、「労働力の価格」、「賃金」等の経済学における重要な概念を取り扱い、われわれの研究とのかかわりを明らかにすることなしには、家庭経営学視点での独自的研究の成果を、他隣接領域の理論の中に位置づけ、生活研究の共有財産とすることが困難であることを痛感する。本報告は、主として、「労働力」概念の分析を行ってわれわれの見解を示し、標準生活費に関する理論的研究の一環となるようとするものである。

方法・結果 第1に、人間にとて「労働」とは何か、「労働力」とは何かを歴史的に概観し、第2に、資本主義社会における「労働力」と階級的視点から分析の対象とする。第3に、労働者階級に視点としより、「労働力商品の価値」をめぐる理論上の諸問題を検討し、「労働力商品の価格」である「賃金」の媒介を通じて、われわれの算定した「標準生活費」の位置づけを明らかにする。以上の検討により、「労働力」とは、人間の基本的属性の一つであり、われわれの標準生活費概念は、「労働力」の発達を中心とする人間性の全面開花を保障するような生活内容と様式をめざすものであることが確認された。